

Alta-Dent インフォメーション

(2026年7/8月)

camlog

Dr. Ramon Gomez Meda 来日講演会

Todo para bien すべては良い結果のために

「AIは多くの仕事を奪っていく可能性が高い。しかし、優れた歯科医師は一人も不要になることはない。そのために私のセミナーでは、テクニックを覚えて帰るのではなく、フィロソフィーを理解することが極めて重要である。そして、明日の月曜日の朝から臨床に生かせる内容を伝えたい」

8月1日（土）1日目の午前・午後の2セッションによるハンズオンに続き、8月2日（日）10時より東京コンファレンスセンター品川にて、約200名の来場者へ向けて熱いメッセージが届けられました。

講演では臨床に即した内容はもちろんのこと、メーカーに左右されない視点と、固定化された「エビデンス」とらわれない考え方が示されました。自身の学びや失敗から得た未来予想図ともいえる知見を、「1本の歯を理解する」という基本理念の上に構築し、参加者に分かりやすく、そして情熱的に伝えていました。



また、午後のセッションでは昼食後の時間帯であることにも配慮し、抑揚のある話し方や身振りを交えながら講演を展開されていました。演者としての細やかな心配りとともに、ご自身の「伝えたい想い」を十分に披露されていたことが印象的でした。

2日間を通じて特に印象に残ったのは、「QOL of Every Patient」が最も重要であるという一貫したメッセージです。そして、その実現こそが良い結果につながるのだと、講演の随所で語られていました。インプラント治療についても、最も重要なのは“正しい埋入位置”であることを繰り返し強調されていました。

中でも強く心に残ったのは、次の言葉です。

「私たちはこれまで、教えられたとおりに行動してきました。

私たちは、長年続けてきたやり方や常識を変えることに不安や恐れを感じてしまうのです。

しかし、失敗は学びの機会です。

だからこそ、私たちは学び続けなければなりません。なぜなら、まだ知らないことが数多くあるからです。

私は自分のためではなく、患者さんのためにこれを行っています。」

このようなフィロソフィー（哲学）こそが、Ramon Gomez Medaという優れたDentist、そしてSpeakerとしてだけでなく、一人の「人」としての魅力となり、世界中の歯科関係者を惹きつけている理由なのだと感じました。

Todo para bien（すべては良い結果のために）

これこそが、現代を生きる私たちの合言葉であるべきだと感じた2日間でした。

Muchas gracias, Ramon, and see you again in the near future!



【編集後記】

まじめで仕事熱心という面ばかりかとおもいきや、やはりスペイン人らしい（？）お茶目な面を持つラモン先生でした。日本酒を好み、また、日本食も好き嫌いなく食されていました。スペインには美食家も多く、日本に通ずるものがあるとお話されていました。

今回の来日は次の予定もあり、数日と短かったので次回は日本でバケーションをとりたいとも。

さらに来年6月には親父家のラモン先生をスペインに訪問して現地でレクチャーやオペの見学などのツアー案が浮上、こちらの詳細に関しては後日ご連絡いたします。ご参加の皆様お疲れさまでした。

Freiburg University Tour 2026

～ 学ぶ、楽しむを満喫する3.5日～



6月24日から26日までの3日間、ドイツ南西部、通称「黒い森（シュヴァルツヴァルト）」エリアにて、カムログ・フライブルク研修ツアーを開催いたしました。Dr.、DH、DT、Co-Dentalの皆様、そしてアルタデントスタッフを含め、総勢20名を超える参加者で構成された今回のツアーは、「製造（カムログファクトリー）」と「臨床（フライブルク大学）」という2つの大きな柱を中心に、本場ドイツの雰囲気を楽しみながら最新の知識と技術を学ぶことを目的として行われました。

カムログ製造工場を訪問

前日の23日夜、カムログ製造工場（Altatec Biotechnologies AG）の近隣都市であるプフォルツハイム（Pforzheim）に集合し、参加者の皆様との最初の顔合わせが行われました。この時期のヨーロッパには異例の熱波が到来しており、ドイツでも日中の気温が35℃を超えるなど、これまで経験したことのないほどの暑さになっていました。参加者の皆様も持参したスーツやドレスを着る機会がないほどで、まずは暑さ対策が最優先という状況でした。初日はホテルからバスで約30分、カムログ製造工場のあるWimsheimへ移動。記念撮影の後、Camlog Biotechnologies社の教育担当であるM. Knackmuss氏より、製品説明が行われました。既存製品から新製品に至るまで、一つひとつ丁寧かつ詳細な解説が続き、参加者の皆様も熱心にノートを取りながら聞き入っていました。説明終了後には多くの質問が寄せられ、本ツアーに対する高い関心と意欲が感じられました。



午後はいよいよファクトリーツアーです。参加者全員がヘッドセットを装着し、CNC自動旋盤が絶えず稼働する工場内を見学しました。製造工程や品質管理の説明に、皆様興味深く耳を傾けていました。15年前と比較すると工場規模は約3倍に拡大しており、限られた2時間半の見学時間では、とてもすべてをじっくり見ることはできませんでした。なお、工場内部の写真撮影は禁止となっておりますが、内部の様子をご覧になりたい方はぜひこちらの動画をご覧ください。
https://youtu.be/_iDFTGqkwE?si=5m09NZGNVxwK4nLS

フライブルク大学での研修

今回のツアー最大の目的でもあるフライブルク大学での研修は、参加者それぞれの自己紹介からスタートしました。英語で行われた自己紹介では、皆様が今回の研修への期待や目標をしっかりと語られ、その熱意が伝わってきました。講義はJun.-Prof. Dr. Florian Kernenによるトップダウントリートメントの考え方から始まり、Prof. Dr. Tobias Fretwurstによる抗菌薬に関する講演へと続きました。いずれも期待以上に深い内容で、最新のエビデンスや臨床的視点を交えた非常に学びの多い講義となりました。午後からは空調の効いたオペ室へ移動し、ライブオペを見学しました。参加者の皆様もガウンに着替え、やや緊張した面持ちでオペ室へ入室。執刀を担当したProf. Dr. Katja Nelsonの分かりやすい解説と、次の展開を先読みしながら的確に器具を準備するアシスタントの見事な連携に、多くの参加者が感銘を受けていました。また、モニター横ではDr. Florian Kernenが随時解説を加え、難しい内容も分かりやすく説明してくださいました。参加者の皆様は様々な角度から実際のオペを観察しながら、活発に質問を行っていました。

学びの詰まった2日間

2日目には、ライブオペを受けた患者さんが術後の消毒のために来院され、その際のやり取りを見学する貴重な機会にも恵まれました。患者さんご本人から術後の経過や感想を直接聞くことができ、日本ではなかなか経験できない学びの場となりました。さらにこの日は、Katjaの専門分野であるインプラント・アバットメントコネクションに関する研究についても、最新の研究結果が紹介されました。撮影は禁止でしたが、非常に興味深い内容であり、参加者の皆様も熱心に耳を傾けていました。学びの多い時間は本当にあっという間で、充実した2日間となりました。また、研修期間中の通訳を担当していただいた芝先生、前川先生には心より感謝申し上げます。専門性の高い内容を分かりやすく伝えていただき、本当にありがとうございました。

